令　和　3　年　度
高等学校新入学生徒の学力に関する研究（国語）

愛知県総合教育センターでは，愛知県国語教育研究会高等学校部会と共同で，毎年県内の参加を希望した高等学校等において，その新入学生徒を対象に国語学力調査を実施し，結果の集計・分析及び考察を行っている。

本研究は，次の内容で，本年度分についてまとめたものである。

(1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
(2) 調査問題の構成とねらい，科別・大問別・小問別正答率，群別正答率比較表など
(3) 調査問題及び解答例，応答分析，考察，指導上の留意点など

＜検索用キーワード＞
国語　高等学校　中学校　中高連携　学力調査　正答率　応答分析　読解力

研　究　会　委　員

愛知県立守山高等学校教諭　清野　万葉
愛知県立城北つばさ高等学校教諭　佐久間綾花
愛知県立瀬戸北総合高等学校教諭　平井　尚子
愛知県立旭丘高等学校教諭　廣瀬　民
愛知県立日進西高等学校教諭　牛田　佳宏
愛知県立長久手高等学校教諭　中田　拓麻
愛知県立小牧南高等学校教諭　石黒　裕加
愛知県立知多翔洋高等学校教諭　竹尾紗絵子
愛知県立岡崎高等学校教諭　垣見　優太
愛知県立蒲郡高等学校教諭　前田　晶紀
愛知県総合教育センター研究指導主事　松井　亮
愛知県総合教育センター研究指導主事　三浦千加子（主務者）

目　次

1　調査の趣旨 …… 2
2　調査の実施及び処理 …… 2
3　調査結果の概要 …… 3
4　分析結果の概要 …… 3
5　調査問題の構成及び正答率 …… 4
6　調査問題（一部掲載省略）及び解答 …… 7
7　問題別応答分析と指導上の留意点
(1) 大問［一］現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点 …… 9
(2) 大問［二］現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点 …… 13
(3) 大問［三］国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点 …… 17
(4) 大問［四］古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点 …… 21

１　調査の趣旨

この調査は，昭和30年度以来，名古屋地区国語研究会が中心となって，県内の国公私立高等学校の新入学生徒を対象に実施してきた。昭和45年度からは，愛知県総合教育センター（昭和40年度より事業に参加）と愛知県国語教育研究会高等学校部会との共同研究調査として，調査問題の作成，統計的処理，結果の考察等を行っている。この調査は，次の資料を得ることを目的としている。

ア　中学校及び高等学校における国語教育に関する基礎資料
イ　中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
ウ　全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力を捉えるための参考資料

２　調査の実施及び処理

(1) 実施の時期及び処理

各校の合格者発表後，３月下旬から４月中旬までの間に，各校の実状に応じて適宜調査を実施した。なお，解答時間は50分とした（問題用紙はＡ４判右とじ，解答用紙はＡ４判１枚）。

(2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった103校（２学科以上ある参加校はそれぞれの学科を１校とした）の20,367名について諸調査統計の処理をした。内訳は**表１**のとおりである。

（表１）

課　　程	全　　日　　制					定 時 制	全　体
学　　科	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他		
学　校　数	74	8	2	8	11	0	103
生　徒　数	17,457	1,883	111	361	555	0	20,367

(3) 統計上の調査事項

各参加校には次の事項について回答を求めた。

ア　個人別得点分布
イ　各校10％の無作為の抽出による，各小問ごとの個人得点
注　「群別正答率比較表」（６ページ）のＡ・Ｂ・Ｃ群は，(3)イの「各校10％の無作為の抽出による，各小問ごとの個人得点」を基に各学校を順位付けし，上位９校の抽出生徒300人程度をＡ群，平均点付近の学校の抽出生徒300人程度をＢ群，下位２８校の抽出生徒300人程度をＣ群とし，調査対象としたものである。

(4) 小問別応答分析等（詳細分析は９ページから24ページまで）

５校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって，ａ群＝上位100人，ｂ群＝中位100人，ｃ群＝下位100人に分け，答案に直接当たって応答分析を行った。

なお，各群間の差がほぼ等間隔で付く場合は，〈ａ－ｂ－ｃ型〉，ａ群とｂ群，ｂ群とｃ群との間隔の差が２：１程度以上で付く場合は，〈ａ－ｂｃ型〉，その逆の場合は，〈ａｂ－ｃ型〉，各群の間隔の差がほとんどない場合は，〈ａｂｃ型〉として分類してある。

３　調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて，平均点・標準偏差をみたのが，次の**表２**である。

（表２）

学科別	普通科		総合学科		商業科系		家庭科系		その他		全体	
人数	17,457名		1,883名		111名		361名		555名		20,367名	
得点	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	527	3.0	5	0.3	1	0.9	1	0.3	7	1.3	541	2.7
80～ 89	2,475	14.2	79	4.2	4	3.6	13	3.6	20	3.6	2,591	12.7
70～ 79	4,241	24.3	258	13.7	9	8.1	48	13.3	72	13.0	4,628	22.7
60～ 69	4,135	23.7	513	27.2	32	28.8	86	23.8	99	17.8	4,865	23.9
50～ 59	2,963	17.0	471	25.0	31	27.9	94	26.0	136	24.5	3,695	18.1
40～ 49	1,723	9.9	336	17.8	19	17.1	68	18.8	121	21.8	2,267	11.1
30～ 39	829	4.7	163	8.7	11	9.9	30	8.3	50	9.0	1,083	5.3
20～ 29	412	2.4	45	2.4	3	2.7	14	3.9	38	6.8	512	2.5
10～ 19	125	0.7	12	0.6	0	0.0	6	1.7	11	2.0	154	0.8
0～ 9	27	0.2	1	0.1	1	0.9	1	0.3	1	0.2	31	0.2
平均点	64.2		56.8		55.5		55.2		53.5		63.0	
標準偏差	16.4		14.3		14.5		15.3		16.6		16.4	

４　分析結果の概要　（詳細分析は９ページから24ページまで）

(1) 論理的な文章（大問［一］）を読む力について

苫野一徳著『はじめての哲学的思考』より，著作権の許諾を取った上で出題した。大問一全体の正答率は56.4％で，特に，本文に用いられている表現とそのねらいを理解する小問六では，正答率は23.1％にとどまった。今後は，文章の内容を理解するだけでなく，展開や構成，叙述を基に書き手の意図を的確に理解できるように指導する必要がある。

(2) 文学的な文章（大問［二］）を読む力について

朝倉宏景著『あめつちのうた』より，著作権の許諾を取った上で出題した。大問二全体の正答率は69.0％で，登場人物の心情の変化についてはおおむね的確に読み取ることができることが分かった。しかし，言葉の複合的な意味を理解し，使う力が求められる小問四では，正答率は33.9％にとどまった。今後は，さまざまな表現に触れて語彙を豊かにするとともに，文章の中の描写を根拠に，微妙な心情の移り変わりを読み取る学習活動を充実させる必要がある。

(3) 国語基礎力（大問［三］）について

前半は情報の理解と整理について，後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。前半の問いでは，生徒同士の会話の流れを読み取った上で，文字による情報だけでなく，表やグラフからも情報を読み取り，それらを関連付けて考察する力が必要であった。また，読み取った情報の扱い方についての学習とともに，基本的な論理的思考力を身に付けることができるように指導する必要がある。

(4) 古文（大問［四］）を読む力について

鎌倉時代前期の説話集『宇治拾遺物語』より出題した。大問四全体の正答率は72.4％で，本文の内容についてはおおむね理解できたようである。今後は，古典作品の内容や解釈を踏

まえ，我が国の言語文化について，自分のものの見方・感じ方・考え方を深められるよう，古典学習の指導を工夫する必要がある。

５　調査問題の構成及び正答率

(1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は，現代文２題（論理的な文章と文学的な文章），国語基礎力１題及び古典（古文）１題によって構成した。各小問のねらいや配点を**表３**に示す。

（表３）

大問	分野・領域	小問	小　問　の　ね　ら　い	設問形態	小問数	配　点
一	現　代　文 (論理的文章)	一	内容の理解	選択（1/5）	1	4×1
		二	内容の理解	選択（1/5）	1	4×1
		三	内容の理解	記述	1	4×1
		四	内容の理解	選択（1/5）	1	6×1
		五	内容の理解	選択（1/5）	1	6×1
		六	表現の理解	選択（1/5）	1	6×1
					〈6〉	計30点
二	現　代　文 (文学的文章)	一	心情の理解	選択（1/5）	1	2×1
		二	心情の理解	選択（1/5）	1	2×1
		三	心情の理解	選択（1/5）	1	4×1
		四	内容の理解	記述	1	4×1
		五	心情の理解	選択（1/5）	1	4×1
		六	表現の理解	選択（1/5）	1	4×1
					〈6〉	計20点
三	国語基礎力 (漢字・語彙等)	一	情報の理解と整理			
			(1)条件を踏まえた具体的表現の理解	選択（1/5）	1	2×1
			(2)発言の根拠の理解	選択（1/5）	1	3×1
			(3)発言の根拠の理解	選択（1/5）	1	3×1
			(4)会話における役割の理解	選択（1/5）	1	2×1
		二	カタカナ語についての知識	選択（1/5）	1	2×1
		三	同音異義語の理解	選択（1/5）	1	2×1
		四	慣用表現についての理解	選択（1/5）	1	2×1
		五	敬語の理解	選択（1/5）	1	2×1
		六	漢字の読みと書き取り	記述	6	2×6
					〈14〉	計30点
四	古　典（古文）	一	歴史的仮名遣いの確認	記述	1	2×1
		二	内容の理解	選択（1/5）	1	2×1
		三	文脈の理解	選択（1/5）	1	4×1
		四	内容の理解	選択（1/5）	1	4×1
		五	内容の理解	記述	1	4×1
		六	内容の理解	選択（1/5）	1	4×1
					〈6〉	計20点

(2) 科別・大問別・小問別正答率

次の**表４**は，各校の，無作為に抽出された10％の生徒の得点を処理して，正答率（％）を求めたものである。〔小計欄の正答率は，各小問の加重平均〕

（表４）

大問	学科		普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他	全体
	小問	配点	1,773	190	11	38	58	2,070
一	一	4	74.3	67.4	45.5	57.9	56.9	72.7
	二	4	72.3	62.1	72.7	63.2	69.0	71.1
	三	4	55.2	48.9	63.6	44.7	48.3	54.3
	四	6	58.0	37.9	27.3	31.6	44.8	55.2
	五	6	72.8	67.4	72.7	63.2	63.8	71.9
	六	6	25.2	12.6	9.1	5.3	10.3	23.1
	小計	**30**	58.1	47.4	46.1	42.1	47.0	56.4
二	一	2	79.1	74.7	90.9	84.2	74.1	78.7
	二	2	57.8	58.4	72.7	65.8	62.1	58.2
	三	4	88.3	87.9	90.9	94.7	84.5	88.3
	四	4	34.2	34.2	54.5	15.8	31.0	33.9
	五	4	81.8	71.6	72.7	89.5	86.2	81.1
	六	4	74.0	68.4	54.5	73.7	77.6	73.5
	小計	**20**	69.4	65.7	70.9	69.7	69.5	69.0
三	一(1)	2	81.7	76.3	63.6	76.3	67.2	80.6
	一(2)	3	19.0	13.7	0.0	23.7	19.0	18.5
	一(3)	3	51.9	46.8	45.5	50.0	44.8	51.2
	一(4)	2	84.3	77.4	60.6	76.3	76.7	83.3
	二	2	65.0	52.6	36.6	65.8	69.0	63.8
	三	2	81.0	78.4	63.6	81.6	58.6	80.1
	四	2	13.5	13.2	0.0	2.6	13.8	13.2
	五	2	74.6	57.4	72.2	81.6	60.3	72.7
	六(1)	2	31.6	22.1	9.1	21.1	10.3	29.9
	六(2)	2	63.6	47.4	81.8	65.8	51.7	61.9
	六(3)	2	61.6	50.0	63.6	52.6	41.4	59.8
	六(4)	2	89.9	84.2	100.0	89.5	79.3	89.1
	六(5)	2	57.9	44.7	54.5	39.5	44.8	56.0
	六(6)	2	98.0	98.9	100.0	94.7	96.6	98.0
	小計	**30**	60.6	52.9	53.6	57.2	51.0	59.5
四	一	2	90.9	86.3	100.0	92.1	86.2	90.4
	二	2	89.4	80.0	100.0	86.8	79.3	88.3
	三	4	80.3	73.2	72.7	78.9	67.2	79.3
	四	4	69.3	60.0	63.6	73.7	62.1	68.3
	五	4	44.7	27.4	27.3	31.6	22.4	42.1
	六	4	83.5	85.3	63.6	78.9	63.8	82.9
	小計	**20**	73.6	65.8	65.5	70.5	59.7	72.4

(3) 群別正答率比較表

（表５）

大問	小問	A群	B群	C群
一 論理的文章	一	93.6	70.7	55.1
	二	91.7	74.3	47.8
	三	64.7	56.0	41.5
	四	85.6	48.7	28.9
	五	84.3	66.3	54.2
	六	48.7	17.7	11.6
	小計	77.5	52.3	29.3
二 文学的文章	一	92.9	77.7	55.8
	二	59.6	58.3	50.8
	三	98.7	92.3	68.1
	四	40.7	36.3	28.9
	五	91.3	81.0	62.5
	六	85.3	72.3	60.5
	小計	76.1	66.0	47.9
三 国語基礎力	一(1)	95.8	84.3	52.8
	(2)	31.7	13.0	13.0
	(3)	64.7	51.7	34.2
	(4)	93.9	87.0	58.8
	二	78.2	62.7	48.8
	三	94.9	87.3	54.2
	四	25.6	8.3	14.0
	五	91.0	76.3	46.2
	六(1)	52.9	25.0	11.6
	(2)	90.4	60.7	33.2
	(3)	86.5	58.7	31.2
	(4)	99.4	94.7	67.4
	(5)	84.9	54.0	24.6
	(6)	100.0	99.7	90.0
	小計	68.9	43.0	26.5
四 古文	一	97.4	94.0	70.8
	二	97.8	92.0	64.5
	三	94.6	79.0	54.5
	四	74.0	76.7	51.5
	五	69.6	39.3	18.3
	六	94.6	88.0	59.1
	小計	71.3	45.8	27.1

（注）A・B・C群については，「２　調査の実施及び処理」（２ページ）の注を参照。

6　調査問題（一部掲載省略）及び解答

〔三〕　次の問いに答えよ。

問一　〇〇高校の国際交流部は活動の一環として、商店街の依頼を受けて外国の人に向けた、日本の魅力を伝える【**ポスター**】を作ることにした。次の【**会話**】【**資料1**】【**資料2**】を踏まえて、あとの問いに答えよ。

【会話】

A：前回の話し合いで決まった通り、【**ポスター**】の**Ⅰ**のスペースの内容は「和食」についてだね。試しに作ってみたよ。

B：和食の情報がたくさん紹介されているね。でもこの表現では正しく伝わりにくいと思うよ。

C：確かに。もう少し分かりやすい表現に直さなければいけないね。

A：じゃあ後で直しておくよ。残った**Ⅱ**のスペースはどうしようか。

B：**商店街からの要望**にはちゃんと応えないとね。

D：［　①　］といいと思う。

C：**全校アンケートの結果**からも、それがいいかもしれないね。

A：これであと残るのは**Ⅲ**のスペースだけだよ。何を取り上げようか。

B：多くの外国の人が興味のあることを優先して紹介した方がいいね。**全校アンケート**には［ X ］や［ Y ］は入っていないけど、［ Z ］は入っているね。

D：商店街の人も喜びそうな［ X ］について取り上げてはどうだろう。

C：なるほど。それは良さそうだね。

A：これならすべての要望を叶えるポスターができそうだね。早速作って商店街の人に見てもらおう。

【資料1】アンケートの結果と比較

順位	外国人旅行客が興味をもっていること（街頭アンケートより）	外国の人に伝えたい魅力（全校アンケートより）
1	和食	和食のおいしさ
2	お寺・お城	四季の景物の美しさ
3	書物	アニメ・漫画の面白さ
4	伝統芸能	安全さや清潔さ
5	桜・紅葉	お寺やお城の魅力

【資料2】商店街からの要望

・生徒さんのアンケートの結果と、外国の人の興味があるものとで同じものは必ず1つ紹介してほしい。

・実際に店などで体験できるものを紹介してほしい。

・外国の人が気づいていない、日本の魅力を紹介してほしい。

【ポスター】

(1)　【**会話**】の後、Aさんは【**ポスター**】の「しゃぶしゃぶ」の紹介文を次のように書き直した。修正された箇はどのような点が書き直されているか、最も適当なものをあとから選び、かな符号で答えよ。

・しゃぶしゃぶ
薄く切った肉を、あたためた湯やだし汁に白くなるまでくぐらせて、いろいろな味のたれにつけて食べます。

ア　言葉を分かりやすくするため、熟語の部分はなるべく易しい言葉に直す。
イ　意味が通じやすいように、一文には一つの情報だけを入れるようにする。
ウ　外国の人に伝わるように、なるべくカタカナ語を使うようにする。
エ　再現しやすいように、手順通りに書いて詳しく説明するようにする。
オ　状態を想像しやすくするために、比喩表現を使うようにする。

(2)　空欄①にはどのような発言が入ると考えられるか。最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア　和食の魅力をもっと伝えるために、もう少し和食を紹介する
イ　世界に誇る日本建築の美しさを伝える意味でも、お寺やお城を紹介する
ウ　桜や紅葉は写真映えもして人気もあるから、ここで紹介する
エ　今の伝統芸能は若者向けの演目も多くあるし、やっぱり紹介する
オ　日本の若者に人気の高い文化の一つ、アニメや漫画を紹介する

(3)　空欄X、Y、Zに当てはまるものの組み合わせとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

	X	Y	Z
ア	着物	桜・紅葉	伝統芸能
イ	伝統芸能	着物	アニメ・漫画
ウ	アニメ・漫画	桜・紅葉	お寺・お城
エ	着物	伝統芸能	桜・紅葉
オ	お寺・お城	着物	桜・紅葉

(4)　【**会話**】全体を通して生徒の役割について述べた次の文について、空欄x、yに当てはまる生徒の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

・資料にもとづいて的確な意見を述べているのは［ x ］で、話題の提起をして、話し合いの進行役となっているのは［ y ］である。

	x	y
ア	生徒A	生徒B
イ	生徒A	生徒C
ウ	生徒B	生徒A
エ	生徒B	生徒C
オ	生徒C	生徒A

問二　次の傍線部のカタカナ語を説明した文として誤っているものを一つ選び、かな符号で答えよ。

ア　あることを行う際に共通の目標となる文言のことをスローガンという。
イ　たくさんの人がもっている意見が合致することをイノベーションという。
ウ　世間や大衆に大きな影響を与える人のことをインフルエンサーという。
エ　他者よりも自己の利益を優先する考え方のことをエゴイズムという。
オ　複数の人や団体が一緒に何かに取り組むことをコラボレーションという。

問三　次の［ ① ］～［ ③ ］に当てはまる語の組み合わせとして正しいものをあとから選び、かな符号で答えよ。

・この調査は中学生を［ ① ］としている。
・私と姉は非常に［ ② ］的な性格だ。
・左右［ ③ ］の美しい建造物を眺める。

	①	②	③
ア	対象	対照	対称
イ	対称	対照	対象
ウ	対象	対称	対照
エ	対象	対照	対称
オ	対照	対象	対称

問四　次の傍線部の慣用表現の使い方として誤っているものを一つ選び、かな符号で答えよ。

ア　彼女はその結果を聞き、ショックを受け包を失った。
イ　彼誕生日に欲しがったものを買ってもらい浮き足立つ。
ウ　彼とは長い付き合いで、信頼できる気の置けない友人だ。
エ　そろそろ腰を据えて真剣に勉強を始めなければいけない。
オ　この国のすばらしい高度な技術に、みな舌を巻いた。

問五　次の敬語の使い方として正しいものを一つ選び、かな符号で答えよ。

ア　私は明日、母校の先生たちとお会いになる。
イ　お客様、あちらの窓口でお伺いしてください。
ウ　父は一時間後にこちらへいらっしゃる予定です。
エ　弟は夕飯を先輩の家で召し上がることになった。
オ　あなたのご家族のことを紹介していただけますか。

問六　次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

(1)　さまざまな部活動からのカンユウにあう。
(2)　山頂からのパクリョクある景色に感動する。
(3)　やっと出番が終わり、少し気がユルむ。
(4)　彼からの申し出を、皆が快く受け入れた。
(5)　新しい着物を仕立てるため、反物を買う。
(6)　前日に外出するための支度をすませておく。

〔四〕 **次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。**

昔、天竺（インド）の深い山奥に、体の色が五色で角の白い鹿が一頭住んでいた。その山のほとりに大きな川があった。

ある時この川に男一人流れて、すでに死なんとす。「我を人助けよ」と叫ぶに、このかせぎ、この叫ぶ声を聞きて、悲しみに堪へずして、川を泳ぎ寄りて、この男を助けてけり。男、命の生きぬる事を悦びて、手を摺りて鹿に向かひていはく、「何事をもちてか、この恩を報ひ奉るべき」といふ。かせぎのいはく、「何事をもちてか恩をば報はん。ただこの山に我ありといふ事をゆめゆめ人に語るべからず。我が身の色五色なり。人知りなば、皮を取らんとて必ず殺されなん。この事を恐るるによりて、かかる深山に隠れて、敢へて人に知られず。然るを、汝が叫ぶ声を悲しみて、身のゆくすゑを忘れて助けつるなり」といふ時に、男、「これまことに理なり。さらにもらす事あるまじ」と、返す返す契りて去りぬ。もとの里に帰りて月日を送れども、さらに人に語らず。

（『宇治拾遺物語』巻第七　「一　五色の鹿の事」）

※注　かせぎ　鹿の古い言い方。

問一　波線部「向かひていはく」を現代かなづかい（ひらがな）で記せ。

問二　二重傍線部Ⅰ、Ⅱの「我」はそれぞれ何を指しているか。その組み合わせとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア　Ⅰ　鹿　Ⅱ　男　　イ　Ⅰ　人　Ⅱ　鹿
ウ　Ⅰ　男　Ⅱ　鹿　　エ　Ⅰ　男　Ⅱ　人
オ　Ⅰ　鹿　Ⅱ　鹿

問三　傍線部①「悲しみに堪へずして」の理由として、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア　男がまだ自分の死に気付いていないから。
イ　男が鹿に気付かず人に助けを求めるから。
ウ　男が川に飛び込んで死のうとしたから。
エ　男が川に流されて死んでしまったから。
オ　男がおぼれて死んでしまいそうだから。

問四　傍線部②「何事をもちてか恩をば報はん」の解釈として、最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

ア　あなたが私に対して恩返しをする必要などはありません。
イ　あなたが私に恩返しをすることはとてもできません。
ウ　あなたが何を持ってきたとしても恩返しにはなりません。
エ　あなたはどうしたら恩返しをすることができるのでしょうか。
オ　あなたはどのようなことに対して恩返しをするのでしょうか。

問五　傍線部③「身のゆくすゑ」の内容を具体的に述べている一文を抜き出し、はじめの五字を答えよ。

問六　この物語には続きがある。里に帰った男は、しばらくは五色の鹿のことを口外しなかったが、後に褒美目当てに鹿の居場所を大王に話してしまう。次の一節は、男の案内により、大王と鹿が対面する場面である。本文をふまえた上で、二つの□に共通して入る語として、最も適当なものをあとから選び、かな符号で答えよ。

その時に大王、同じく涙を流してのたまはく、「汝は畜生なれども、慈悲をもて人を助く。かの男は欲にふけりて□を忘れたり。畜生といふべし。□を知るをもて人倫とす」とて、（後略）

ア　死　イ　我　ウ　命　エ　恩　オ　身

令和三年度　新入生国語学力調査問題（解答と配点）

※かな符号で答えるべきところを選択肢の内容で答えた場合も正解とする。

〔一〕

問一	エ
問二	ア
問三	メカニズムを知る必要
問四	イ
問五	オ
問六	ウ

問一・問二・問三は各4点　問四・問五・問六は各6点《小計30点》

〔二〕

問一	オ
問二	ウ
問三	ア
問四	プロ
問五	エ
問六	イ

問一・問二は各2点
問三〜問六は各4点
《小計20点》

〔三〕

問一	(1)	ア
問二	(2)	オ
	(3)	エ
	(4)	ウ
問三		ア
問四		イ
問五		オ
問六	(1)	勧誘
	(2)	迫力
	(3)	緩む
	(4)	こころよく
	(5)	たんもの
	(6)	したく

問一(2)(3)は各3点
その他各2点《小計30点》

〔四〕

問一	むかいていわく（向かいていわく）
問二	ウ
問三	オ
問四	ア
問五	人知りなば
問六	エ

問一・二は各2点　問三〜六は各4点《小計20点》

7　問題別応答分析と指導上の留意点

・表右端の％は，抽出校５校の生徒 300 人の正答率若しくは誤答率である。

・分析内容のゴシック体は，高等学校学習指導要領（平成 21 年３月）の指導事項であることを示す。
　括弧の中の数字・記号の意味は，次の例のとおりである。
　例：（C⑴ア）…国語総合Ｃ「読むこと」⑴指導事項のア文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと

⑴ 大問［一］現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	エ（ なぜたまねぎを切ると～ ）	91	81	47	219	73.0
	誤答	オ（ 友人との関係で重視するもの～ ）	2	5	23	30	10.0
		ア（ 何を目標にして勉強すれば～ ）	3	8	12	23	7.7
		イ（ 人はどんな時に最も幸せを～ ）	2	5	12	19	6.3
		ウ（ なぜこの作品を好きだと～ ）	2	1	5	8	2.7
		（ その他 ）			1	1	0.3

主題を対比的に捉える問題である。正答はエ「なぜたまねぎを切ると涙が出るのか」で，正答率は 73.0％，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

傍線部「意味の世界」が「事実の世界」との対比であること，そして本文中の具体例から，「意味」と「事実」の内容の違いを理解できていれば正答に至る。誤答した生徒は，抽象的な概念を理解する力や，叙述の内容を一般化したり具体化したりする力に課題があると推測される。

問二

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ア（ 客観的な事実よりも～ ）	96	79	44	219	73.0
	誤答	ウ（ 事実から意味を排除～ ）	1	6	22	29	9.7
		エ（ 自然界に意味を見つけ～ ）	2	10	11	23	7.7
		オ（ 哲学が探究することは～ ）		3	13	16	5.3
		イ（ 科学が事実を探究しない～ ）		2	10	12	4.0
		（ 無　答 ）	1			1	0.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はア「客観的な事実よりも，意味があると認識することの方が先だということ」で，正答率は 73.0％，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

本問では，問一と同様に「意味の世界」と「事実の世界」の対比を押さえた上で，傍線部「まるっきり逆」の前後を丁寧に読み，「逆」とは，「意味」が先で「事実」が後であることを指していると理解できれば正答に至る。エを選んだ生徒は，「意味」が先であることは理解しているが，本文を貫く筆者の主張を的確に捉えられていない。また，ウを選んだ生徒は，傍線部の直前に「“意味”」は「あとからくっつけた」とあることから，それを「逆」にすると判断し，選択肢の「意味を排除しなければ」に注目したのかもしれない。いずれにしても，話題の中心や文章の構成・展開などを確認しながら読み解く力が求められることから，特に正答率の低かったｃ群の生徒を中心に，**文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること（C⑴イ）**に関する指導を重点的に行う必要がある。

問三

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	メカニズムを知る必要	78	59	35	172	57.3
	誤答	健康や長寿に“意味”	4	5	6	15	5.0
		豊かな「意味の世界」	5	6	1	12	4.0
		法則や天体メカニズム		5	2	7	3.3
		（ その他 ）	9	10	25	44	14.7
		（ 無　答 ）	4	15	31	50	16.7

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答は「メカニズムを知る必要」で，正答率は 57.3%，〈a － b － c 型〉を示している。

三十一行目から四十行目において，「事実」が存在するためには，人間がそれらの法則に「意味」を見出している必要があるということが，天体法則や人体の仕組みなどを例に挙げながら具体的に述べられている。一方，設問に示された文はこれらの内容が一般化された表現で記述されており，「事象」という単語が本文中の法則や仕組みを表していることに気付くことが必要になる。同様に，「知的好奇心がくすぐられる」も一般化された表現である。法則や仕組みに対して「知的好奇心がくすぐられる」とはどういうことなのかを，本文の傍線部より後の部分から丁寧に読み取ることができれば正答に至る。「健康や長寿に“意味”」のように，具体的な内容を抜き出す誤答が多かったことから，具体と抽象の関係を正確に捉える能力が十分ではないと考えられる。高等学校では**文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること（C (1) イ）**の指導を丁寧に行うことが必要である。

問四

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	イ（ 人間の興味に関係なく～ ）	93	51	12	156	52.0
	誤答	ウ（ 人間が世界に～ ）	5	28	21	54	18.0
		ア（ 人間の存在が～ ）		18	35	53	17.7
		エ（ 人間の認識だけでは～ ）	1	2	25	28	9.3
		オ（ 人間が考えても～ ）	1	1	7	9	3.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はイ「人間の興味に関係なく，自然界の法則は変わらず存在すると感じるため」で，正答率は 52.0%，群間差の大きい〈a － b － c 型〉を示している。

本問では，筆者の主張が「腑に落ちない」人が多い理由を文脈に即して読み取る力が求められる。「腑に落ちない」という慣用句の意味が理解できていれば，人間は「事実の世界」が先に存在しているという固定観念から離れられないことが理解でき正答に至る。仮に「腑に落ちない」という慣用句を知らなくても，文章を丁寧に読み，その構成に気付くことができれば正答に至る。アは「人間の存在」が，ある事象に対して“意味”を見出すことによって，「客観的事実」が意味をもつということであり，筆者の考えと一致する。誤答した生徒は，「腑に落ちない」という慣用句の意味を理解していなかったか，「客観的な事実」と人間にとっての“意味”を比較しながら述べている文章の構成に気付けなかった可能性がある。語彙を豊かにする指導と文章全体を俯瞰し読み取る指導が効果的である。**文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること（C (1) イ）**の指導を行うことが必要である。

問五

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	オ（ 動物によってそれぞれ～ ）	92	77	38	207	69.0
	誤答	エ（ 人間や動物などもそれぞれ～ ）	4	12	24	40	13.3
		ウ（ 自然界にはまだ科学的に～ ）	3	8	22	33	11.0
		イ（ 人間は五感が発達して～ ）		2	8	10	3.3
		ア（ この世界で起きている～ ）		1	7	8	2.7
		（ 無　答 ）	1		1	2	0.7

傍線部の内容を文脈に沿って理解する問題である。正答はオ「動物によってそれぞれ世界の認識の仕方が違うのと同じように,誰もが主観的にしかこの世界を認識することができないということ」で，正答率は，69.0%，群間差の大きい〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

傍線部を含む一文は，「つまり」とあることから，筆者の論のまとめとなっている文である。そのため，この段落以前に挙げられている動物の具体例の意味することを正確につかむ必要がある。ウ・エを選択した生徒は，ウ「自然界」エ「動物」などの例には着目できているが，本文において，その例が意味することを正しく理解できておらず，正答を絞ることができなかったと考えられる。特にｃ群の生徒は，その傾向が顕著である。本問でポイントになるのは，**文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること（Ｃ(1)イ）**であることから，具体例と筆者の意見を読みつなぎながら論旨を的確に読み取っていく力が求められる。

問六

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ウ（ 「無色透明」や「色を帯び」と～ ）	40	14	3	57	19.0
	誤答	エ（ 「哲学」という学問の内容を～ ）	26	28	26	80	26.7
		ア（ 「？」を随所に使うことに～ ）	23	29	25	77	25.7
		オ（ 「犬やネコやカラス」や～ ）	8	20	25	53	17.7
		イ（ 筆者の意見とは異なる哲学者～ ）	2	9	20	31	10.3
		（ 無　答 ）	1		1	2	0.7

表現の理解を本文把握につなげる問題である。正答はウ「『無色透明』や『色を帯び』といった『色』の表現を用いて，繰り返し使われている言葉の対比を明確にし、主題の理解を深めさせようとしている」で，正答率は 19.0%，低位の〈ａ－ｂｃ型〉を示している。

本文のキーワードである「意味の世界／事実の世界」の二項対立を色の表現に置き換えることで，「意味の世界は事実の世界に先立つ」という主題をイメージしやすくしていることが理解できれば正答に至る。しかし，色の表現が文章の最後に出てくるため，見落とした生徒が多いことが正答率の低さにつながっていると思われる。また，ア・エを選択した生徒は文章表現の工夫に関しては読み取れているようであるが，その表現がどのようなねらいで書かれたものかを理解することができていない。ア「ともに謎に立ち向かっていこう」や，エ「その魅力を幅広く伝えようとしている」等のもっともらしい言葉に引っ張られ，主観的な解釈でねらいを選んでしまったのではないか。

本文の対比関係や抽象的表現の意味するところをつかみながら，細かいところまで見逃さずに読み，選択肢を吟味することが求められる問題であった。どの小問よりも正答率が低いことから，**文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること（Ｃ(1)エ）**により重点を置いて学習させていく必要性がある。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点
文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図をとらえたりすること（C(1)エ）についての力が十分ではない生徒が多い。
指導における改善の具体策
同じ話題で書かれているが，意図の異なる内容の新聞記事の読み比べを行わせる。また，記事で使われている表現が，それぞれの記事の内容にどのような効果をもたらしているかを考えさせる指導を行う。

展開１　**（ねらい：記事の内容を理解する）**

グループに分かれ，ＫＪ法を用いて，それぞれの記事を読んで気が付いたことを書き出す。その後，カテゴリー化したり，図にしたりする。

→　本文読解のためには，多角的な視点をもつことが必要であることを意識させておきたい。

展開２　**（ねらい：記事を読解し，主題を捉える）**

大見出しの文章の一部を空欄にしたものを用意し，グループ内で空欄の中に入る言葉を考える。

（例　サッカー日本代表がワールドカップで負けた際の記事）

Ａ新聞大見出し	「世界の壁　８強の（　　）を見た」	答え＝夢
Ｂ新聞大見出し	「完全燃焼（　　）の証し」	答え＝進化

→　大見出しは，記事の内容が要約され，記者が読者に伝えたい意図が集約されているものである。つまり，記事の内容や主題を正確に読解できていないと，空欄に適切な語句を補充できない。そのため，空欄に適した語句を発表させる際には，その語句を選んだ根拠も含めて発表させたい。

展開３　**（ねらい：表現の工夫を分析し，そのねらいを考える）**

記事全体ではなく，一部分の文章表現に焦点を当てながら読み比べを行い，分析したものを発表する。

展開１で行った活動を参考に，気になった文章表現について分析する。例として

(1) 対比文（例：日本代表チームと相手チームの描写）

(2) 引用文（例：選手や監督の言葉）

(3) 比喩・慣用表現（例：「〇〇代表は化物だった」「幸運の女神は日本に微笑まなかった」）

などに着目し，表現の工夫がそれぞれの記事の内容にどのような効果を上げているのかを考える。

→　文章全体に散りばめられている表現の工夫によって，状況を想像しやすくしたり，主題を強調したりするねらいがあることを理解させたい。

発展　・展開を通して学んだことを基に，感想を話し合ったり，文にまとめてみたりする。

・実際に一つの出来事について，記事を書いたり見出しを付けたりする。

※　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「現代の国語」Ｃ　読むこと(1)イに対応。

(2) 大問［二］現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	オ（ 長谷さんが高校時代に出会って～ ）	95	78	58	231	77.0
	誤答	ア（ 長谷さんが恩人だと気付けなか～ ）	4	14	26	44	14.7
		エ（ 長谷さんに落ち込んだ自分を～ ）	1	7	7	15	5.0
		イ（ 長谷さんに何度も否定された～ ）		1	7	8	2.7
		ウ（ 長谷さんが自分に対する態度を～ ）			2	2	0.7

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はオ「長谷さんが高校時代に出会っていた人であってほしいと願っているから」で，正答率は 77.0%，〈ａ－ｂ－ｃ型〉を示している。

傍線部内の「すがりつくような視線」とその前後に繰り返される 24・36 行目「長谷さんですよね？／なんですよね？」という発言を結び付けることによって，オ「願っている」，又はエ「期待」に絞り込むことができ，正答に至る。

誤答はほぼアに集中している。「長谷さん」に向けた思いではなく「一志」自身に向けた思いだと読み違えてしまっているのではないだろうか。「一志」の心情を問われているのであればアを選ぶことも考えられるが，本問では「なぜ『すがりつくような視線』を向けたのか」が問われている。本文の丁寧な読解に加えて，何を問われているかを的確に把握する必要がある。

問二

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ウ（ 一志の熱心な問いかけに心を～ ）	66	55	55	176	58.7
	誤答	エ（ 一志の必死な問いかけに感動を～ ）	26	38	21	85	28.3
		オ（ 一志とやり取りをするうちに～ ）	7	2	12	21	7.0
		イ（ 一志に何度も同じことを聞かれ～ ）	1	4	8	13	4.3
		ア（ 一志がしつこく問いただすこと～ ）		1	4	5	1.7

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はウ「一志の熱心な問いかけに心を打たれてはいるが，真実を明かす気はないため淡々と返答しようと努めている」で，正答率は 58.7%，〈ａ－ｂｃ型〉を示している。

ア，イを選ぶ者が少なかったことから，多くの生徒は「乱暴な口調」が本心ではないことは読み取れているが，本問を解くにはこれに加えて，38 行目に着目できるかどうかが重要である。ここには，「湿り気・震え」が「裏腹に」という逆接表現とともに現れる。解答の集中したエは，前半部分は適当であるが，後半部分の「気恥ずかしさ」について，本文から読み取ることはできない。

問一において正解した者も，「すがりつ」かれれば「感動」すると，自分の理解しやすいように読み進めた可能性がある。**叙述に即して的確に読み取ること（Ｃ(1)イ）**と**心情を表現に即して読み味わうこと（Ｃ(1)ウ）**が同時に求められる。

なお，ａ・ｂ・ｃ群の間に正答誤答とも傾向の差があまり見られない。文脈を大筋において把握することはできるが，その読解の根拠を本文の叙述に求めることができていないという点について，どの群においても同じ課題が見受けられると言えるのではないだろうか。

問三

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア（ 周りを気にせず自分の心に素直～ ）	96	92	73	261	87.0
	誤答	イ（ 長谷さんの言葉に勇気づけられ～ ）	3	4	16	23	7.7
		オ（ 以前のようにひたすら野球に～ ）	1	2	3	6	2.0
		ウ（ ピッチャーを続けるかどうかを～ ）		2	4	6	2.0
		エ（ 野球だけに時間を費やすのでは～ ）			3	3	1.0
		（ 無　答 ）			1	1	0.3

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はア「周りを気にせず自分の心に素直になることで，もう一度野球に向きあおうと決めて自分を奮い立たせている」で，正答率は 87.0%，高位の〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

本問は，傍線部内「わがままに振る舞」うという行為の意味を文脈に即して理解することが求められる。ここでは野球を続けるという決意表明として用いられており，これを理解するためには，中学校第３学年の「語句の効果的な使い方」に注意するのみならず，**文章の内容に応じた表現の特色に注意して読む（Ｃ(1)ア）**必要がある。また，発言内容とともに，口調の変化も重要な点であろう。これらの事項に関して，ａ・ｂ群を中心によく把握できていると言える。

問四

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	プロ	56	37	19	112	37.3
	誤答	一志	14	13	11	38	12.7
		自由	9	7	13	29	9.7
		野球	3	9	14	26	8.7
		その他 （ 本当，独力，家族，一人，夕陽，逆光，自分，感謝，部員，感情，長谷，東京，余裕，純粋，関西，恩人，大地）等	17	29	39	85	28.3
		（ 無　答 ）	1	5	4	10	3.3

文脈に即して空欄を補充する問題である。正答は「プロ」で，正答率は 37.3%，〈ａ－ｂ－ｃ型〉を示している。

本問の一文は，直前の文の構造が繰り返されており，空欄には「一人前」と同義の語が入ると分かる。解答となる 41 行目の「プロ」は「プロ野球選手」の意味であり，「一人前」の意味とはずれるが，「目指すもの」という大きな意味で捉え直すことができれば，正答に至る。問三と同様，中学校第３学年の「語句の効果的な使い方」に注意するのみならず，**文章の内容に応じた表現の特色に注意して読む（Ｃ(1)ア）**必要がある。

誤答のうち，「自由」「独力」「純粋」などは，「～の」という形に当てはまるかどうかの検討がない。しかし「～たい（願望）」が繰り返されている箇所を手がかりにしており，文脈は読めている。そこで，今回の最大の問題点は，「二字」と指定されたことにより熟語に絞って探したと推測される，問題への取り組み方だと言えるだろう。

問五

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問五	正答	エ（ 家族に対する複雑な心情を抱え～ ）	93	78	70	241	80.3
	誤答	イ（ つらい過去にとらわれていたが～ ）	4	11	13	28	9.3
		オ（ 友人に対する嫉妬心を持ち続け～ ）	2	9	12	23	7.7
		ウ（ 父に認めてもらうことを目標に～ ）	1	2	4	7	2.3
		ア（ 嫌いな野球に関わる仕事に就職～ ）				0	0.0
		（ 無　答 ）			1	1	0.3

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はエ「家族に対する複雑な心情を抱えていたが，友人と先輩のやり取りを見てその思いを解き放ち，前向きに生きていこうと決意している」で，正答率は80.3%，高位の〈ａ－ｂｃ型〉を示している。

本問は本文全体の要点を踏まえた読解を必要としているが，正答率が高かった。問三の正答率の高さと併せると，同じような内容が問われていると感じられたのかもしれず，読解の手順を踏まえて正答に至っているわけではないのかもしれないという懸念が残る。解答に至る過程を検討する必要があろう。

イは，後半が本文の内容と全く合わず，かつ前半も「乗り越えようとしている」なら合っているが「乗り越えた」ではそぐわない。オも，本文と全く合っていないが，「嫉妬」という単語は本文にあり「感動」も問二と重複している内容だと言うことができる。本問のみに関わらず，全体を通して，イメージだけを読み取って解答につなげてしまう傾向が見られるため，本文に基づいた丁寧な読解に課題があると言えるだろう。

問六

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問六	正答	イ（ 会話中に「,」や「……」を多用～ ）	89	78	59	226	75.3
	誤答	ウ（ 本文中の「俺」は会話に参加し～ ）	6	6	9	21	7.0
		オ（ 「土を耕す」や「芝と向きあい～」 ）		9	12	21	7.0
		エ（ 「もう見えへんな」や「寒さに～ ）	4	3	11	18	6.0
		ア（ 方言を積極的に使用すること～ ）	1	4	7	12	4.0
		（ 無　答 ）			2	2	0.7

文中の特色ある表現を理解する問題である。正答はイ「会話中に『,』や『……』を多用しており，登場人物の感情の高ぶりやためらいを表現している」で，正答率は75.3%，〈ａ－ｂ－ｃ型〉を示している。

登場人物それぞれが本文全体を通して思いを高ぶらせたりぶつけたりしており，ここまでの各問いでもその揺れ動きを確認している。また，実際に「,」や「……」が多用されていることは本文を読まずとも目視するだけで確認できる。これらの要素から，正答に至ることは難しくなかったと言うことができるだろう。しかし，ｂ群からｃ群になるにつれ誤答にばらつきが生じており，従来と変わらず表現に関する問題を苦手としている生徒は多いと考えられる。傍線部があり，その付近を読めば正答に至るような問題に比べて，問四や本問のように全体を見なくてはならないという問題に対して，特にｃ群の生徒ほど苦手意識があるのではないだろうか。 **文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと（Ｃ(1)ウ）**の指導が求められるだろう。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点
今回の分析において，細かい表現を見落としたり，恣意的に読み進めたりするといった傾向が見られた。語句や文脈を本文に即して丁寧に検討するという態度が身に付いていないと感じられる。
指導における改善の具体策
C (2) アにおいて「**文章を客観的，分析的に読む**」ために「**イメージを具体的にも**」つことが言語活動例に挙げられている。また新学習指導要領においても「言語文化」の各項目において表現を読解につなげることの重要性が述べられている。 そこで，脚本のト書きをつくらせて，人物の動きやカメラワークなどを考えさせることによって，表現に即した心情を正確に捉える練習をさせたい。また，セリフとして書かれていない部分や配役を考えさせることも，場面を具現化させる手段として有効だろう。

【指導展開例】

展開① 知識・技能
［評価の規準　読み落とさず丁寧に本文を追うことができている。］
セリフが入っているプリントに、本文の描写を記入する。

展開② 思考・判断・表現
［評価の規準　描写を検討し、正確に場面を捉えることができている。］
細かい説明を加える。場合によっては書き換える。

展開③ 思考・判断・表現
［評価の規準　場面に応じ、適切なセリフを考えることができている。］
「真夏さん」のセリフの続きを考える。ト書きと合致しているか、確認する。

展開④ 主体的に学習に取り組む態度
［評価の規準　場面について深く考え、適切に演じようとしている。］
実際に演じてみる。間などに注意する。
カメラ役はどこを撮るか確認する。

参考　配役を考えてもよい。

【ワークシート例】ト書きをつくろう

一志　それって、長谷さんですよね？

長谷　無表情
片付ける手を止めない
一志　区切るような言い方

長谷　アホか。俺、ちゃうわ

長谷　軽く聞こえるような調子で
いなすように

一志　僕は、あのときも、（中略）
グラウンドにしゃがみこんだ格好で、逆光で、まぶしくて、（中略）

一志　すがりつくような視線
に

長谷　無表情　一志から見える角度にアップで写す
一志　声のみ

真夏　ナイト……そんな心にもないこと言わないで、本当のこと言えばいいじゃないのに…

真夏　両手を口に当てる　つぶやく

※　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）「言語文化」B　読むこと(1)ウ　に対応。

(3) 大問［三］国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点

問一（複数解答や無答は省略している）

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問一（1）	正答	ア（ 言葉を分かりやすくするため，～ ）	94	80	64	238	79.3
	誤答	エ（ 再現しやすいように，～ ）	5	10	17	32	10.7
		オ（ 状態を想像しやすくするために，～ ）	1	6	10	17	5.7
		イ（ 意味が通じやすいように，～ ）		2	6	8	2.7
		ウ（ 外国の人に伝わるように，～ ）		2	1	3	1.0

条件を踏まえた具体的表現の理解を問う問題である。正答はアで，正答率は79.3%，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。ほとんどの生徒が表現を変更した意図を理解できている。

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問一（2）	正答	オ（ 日本の若者に人気の高い～ ）	40	15	6	61	20.3
	誤答	イ（ 世界に誇る日本建築の～ ）	23	32	36	91	30.3
		ア（ 和食の魅力をもっと伝える～ ）	20	31	33	84	28.0
		ウ（ 桜や紅葉は写真映えもして～ ）	16	20	21	57	19.0
		エ（ 今の伝統芸能は若者向けの～ ）	1	2	3	6	2.0

複数の資料から条件を読み取り，発言の根拠を理解する問題である。正答はオで，正答率は20.3%，低位の〈ａ－ｂｃ型〉を示している。【資料２】にある「外国の人が気づいていない，日本の魅力」と【資料１】にある「外国の人に伝えたい魅力」を同時に満たすものを選ぶと正答に至る。本問では，**文章の構成や展開を確かめ，書き手の意図をとらえること（Ｃ(1)エ）**がポイントであることから，ｂ・ｃ群の生徒には，この資質・能力に課題があることを念頭に置いて指導する必要がある。

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問一（3）	正答	エ（ X 着物 Y 伝統芸能 Z 桜・紅葉 ）	66	56	43	165	55.0
	誤答	イ（ X 伝統芸能 Y 着物 Z アニメ・漫画 ）	32	31	43	106	35.3
		ウ（ X アニメ・漫画 Y 桜・紅葉 Z お寺・お城 ）		8	8	16	5.3
		ア（ X 着物 Y 桜・紅葉 Z 伝統芸能 ）	1	5	4	10	3.3
		オ（ X お寺・お城 Y 着物 Z 桜・紅葉 ）	1		1	2	0.7

複数の資料から発言の根拠を理解する問題である。正答はエで，正答率は55.0%，〈ａ－ｂ－ｃ型〉を示している。イを選んだ生徒は，全校アンケートの読み取りはできているが，商店街からの要望と併せて読むことはできていない。特にｂ・ｃ群の生徒には，文章全体を読んだ上で複数の情報を的確に読み取らせる指導が必要である。

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問一（4）	正答	ウ（ x 生徒Ｂ　y 生徒Ａ ）	95	78	77	250	83.3
	誤答	オ（ x 生徒Ｃ　y 生徒Ａ ）	1	9	7	17	5.7
		エ（ x 生徒Ｂ　y 生徒Ｃ ）	3	7	6	16	5.3
		ア（ x 生徒Ａ　y 生徒Ｂ ）		5	5	10	3.3
		イ（ x 生徒Ａ　y 生徒Ｃ ）		1	4	5	1.7

話し合いにおける生徒の役割を理解する問題である。正答はウで，正答率は83.3%，高位の〈ａ－ｂｃ型〉を示している。ほとんどの生徒が，【会話】における生徒それぞれの役割について正確に理解している。

問二（無答は省略している）

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問二	正答	イ（ イノベーション ）	87	70	44	191	63.7
	誤答	エ（ エゴイズム ）	16	20	43	79	26.3
		オ（ コラボレーション ）	5	8	6	19	6.3
		ア（ スローガン ）	2		1	3	1.0
		ウ（ インフルエンサー ）		1	2	3	1.0
		その他			2	2	0.7

カタカナ語の意味が適切かどうかを見分ける問題である。正答はイで，正答率は63.7%，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。日常生活の中で触れるカタカナ語について，関心をもたせる指導が求められる。

問三（無答は省略している）

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c	合	%
問三	正答	ア（ ①　対象　②　対照　③　対称 ）	95	87	72	254	84.7
	誤答	エ（ ①　対象　②　対称　③　対照 ）	2	4	11	17	5.7
		イ（ ①　対称　②　対照　③　対象 ）	3	3	8	14	4.7
		オ（ ①　対照　②　対象　③　対称 ）		4	3	7	2.3
		ウ（ ①　対称　②　対象　③　対照 ）		2	4	6	2.0

「タイショウ」と読む同音異義語について問う問題である。正答はアで，正答率は84.7%，高位の〈ａｂ－ｃ型〉を示している。文意に即した漢字の使い分けについて指導することが求められる。

問四（無答は省略している）

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問四	正答	イ（ 浮き足立つ ）	15	8	6	29	9.7
	誤答	ウ（ 気の置けない ）	30	58	51	139	46.3
		エ（ 腰を据えて ）	27	17	16	60	20.0
		オ（ 舌を巻いた ）	14	12	12	38	12.7
		ア（ 色を失った ）	14	5	12	31	10.3

慣用表現の使い方が適切かどうかを見分ける問題である。正答はイで，正答率は9.7%，低位の〈ａ－ｂｃ型〉を示している。「浮き足立つ」という言葉は，「恐怖や不安」からくる動作であるが，期待や楽しみを表す「浮つく」などと混同されやすい。**文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにすること（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ｲ)）**がポイントであり，特に用法についての理解を深めさせる指導が必要となる。

問五（無答は省略している）

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問五	正答	オ（ あなたのご家族のことを～ ）	86	79	48	213	71.0
	誤答	ウ（ 父は一時間後にここへいらっしゃる～ ）	3	8	14	25	8.3
		エ（ 弟は夕飯を先輩の家で召し上がる～ ）	3	7	11	21	7.0
		イ（ お客様，あちらの窓口で～ ）	2	4	14	20	6.7
		ア（ 私は明日，母校の先生たちと～ ）	6	2	10	18	6.0

敬語の適切な用例を見分ける問題である。正答はオで，正答率は71.0%，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。特にｃ群の生徒には，敬語の使用について丁寧な指導が求められる。

問六

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（1）	正答	勧誘	55	29	19	103	34.3
	誤答	歓誘	29	34	19	82	27.3
		観誘	3	14	22	39	13.0
		歓□（ □は「誘」以外 ）	4	3	10	17	5.7
		観□（ □は「誘」以外 ）	4	1	6	11	3.7
		勧□（ □は「誘」以外 ）	3	6	1	10	3.3
		（ その他 ）	1	2	8	11	3.7
		（ 無　答 ）	1	11	15	27	9.0

「カンユウ」を漢字に直す問題で，正答率は34.3%，〈ａ－ｂｃ型〉を示している。「勧」を同音であり形の似ている「歓」「観」と誤答した生徒が半数近くにのぼり，問六で最も正答率が低かった。

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（2）	正答	迫力	81	73	42	196	65.3
	誤答	追力	7	8	19	34	11.3
		拍力	2	3	3	8	2.7
		□力	6	9	14	29	9.7
		（ その他 ）	1			1	0.3
		（ 無　答 ）	3	7	22	32	10.7

「ハクリョク」を漢字に直す問題で，正答率は65.3%，〈ａｂ－ｃ型〉を示している。誤答のうち三割が「迫」を「追」と書いており，音よりも形で漢字を認識している生徒が多いと考えられる。

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（3）	正答	緩（む）	82	60	45	187	62.3
	誤答	援（む）	1	9	3	13	4.3
		縮（む）	2	3	5	10	3.3
		（ その他 ）	11	10	9	30	10.0
		（ 無　答 ）	4	18	38	60	20.0

「ユル（む）」を漢字に直す問題で，正答率は62.3%，〈ａ－ｂ－ｃ型〉を示している。平成24年度にも出題されているが，その時の正答率は56.3%であった。

小問	正誤	解　答　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（4）	正答	こころよ（く）	100	92	77	269	89.7
	誤答	こころ（く）			3	3	1.0
		いさぎよ（く）		2	1	3	1.0
		（ その他 ）		4	8	12	4.0
		（ 無　答 ）		2	11	13	4.3

「快（く）」の読みを答える問題で，正答率は89.7%，高位の〈ａｂ－ｃ型〉を示している。昭和63年度（正答率78.5%），平成14年度（正答率53.0%），平成25年度（正答率50.7%）の出題を見ると，徐々に正答率が下がっていたが，今回は大幅に上昇した。

小問	正誤	解　　答　　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（5）	正答	たんもの	75	45	28	148	49.3
	誤答	はんもの	7	15	14	36	12.0
		はんぶつ	3	13	19	35	11.7
		そりもの	7	5	6	18	6.0
		おりもの	2	4	4	10	3.3
		たんぶつ		5	5	10	3.3
		（ その他 ）	3	9	10	22	7.3
		（ 無　答 ）	3	4	14	21	7.0

「反物」の読みを答える問題で，正答率は49.3%，〈ａ－ｂｃ型〉を示している。昭和43年度（正答率93.5%），平成3年度（正答率62.7%）にも出題されたが，今回の正答率が最も低かった。日常生活の中で，このような着物に関する言葉を耳にする機会が減ってきたと考えられる。

小問	正誤	解　　答　　例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六（6）	正答	したく	100	100	96	296	98.7
	誤答	しゅうど			1	1	0.3
		しど			1	1	0.3
		（ 無　答 ）			2	2	0.7

「支度」の読みを答える問題で，正答率は98.7%，高位の〈ａｂｃ型〉を示している。ほとんどの生徒が知識として身に付けている。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点
問四の正答率が低いことから，慣用句の用法の理解が不十分なことが分かった。
指導における改善の具体策

【指導展開例】※生徒の実態に合わせ，各展開例を組み合わせて行うことが好ましい。

展開①〔ねらい：慣用句の正しい意味や用法について，辞書を引くことで確認して知識を身に付ける。〕

・慣用句の意味を辞書で確認する。【個人の活動】

展開②〔ねらい：辞書に書いてある一般的な内容を，日常生活の場面でも使えるように理解を深める。〕

・慣用句についての使用場面を想定し，ワークシートを完成させる。【グループワーク】

展開③〔ねらい：慣用句に対する興味・関心を高める。〕

・②で見せ合った場面から最適なものを一つ使って，動画や紙芝居を作る。【グループワーク】

・完成したものを披露する。【全体発表】

※誤用例も作り，クイズ形式にしてもよい。

※問二への応用可。

※　高等学校学習指導要領（平成30年告示）「現代の国語」〔知識及び技能〕(1)エ　に対応。

(4) 大問［四］古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問一	正答	むかいていわく（ 向かいていわく ）	96	97	84	277	92.3
	誤答	むかいていはく	2	2	3	7	2.3
		訳（ 向かっていう，むかっていく等 ）	1	1	4	6	2.0
		その他（ むこうていわく，むかいてわく等 ）	1		4	5	1.7
		記号（ ア，イ等 ）			3	3	1.0
		（ 無　答 ）			2	2	0.7

歴史的仮名遣いの知識を確認する問題である。正答は「む（向）かいていわく」で，正答率は92.3％，高位の〈ｂａ－ｃ型〉を示している。

正答に至るには，語頭以外の「は・ひ」を「わ・い」と読むことなど，古文の音読に必要な文語の決まりについての知識が必要である。各群において正答率が高かったことから，歴史的仮名遣いに関する知識は多くの生徒に定着していると言える。各群に少数見られる「むかいていはく」という誤答をした生徒には，改める箇所は一つだけだという先入観が働いていたのかもしれない。また，口語でも「こんにち『は』」のように，助詞の「は」を「わ」と読むことから，表記上の区別についての理解が曖昧だった可能性もある。ａ・ｂ群に比べてやや正答率の低かったｃ群の生徒は，**文語のきまり，訓読のきまりなどを理解すること（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ｲ)）**に課題がある。「歴史的仮名遣い」や「現代仮名遣い」，「現代語訳」という用語の区別を正しく理解させた上で，基礎的な知識の定着を図る必要がある。

問二

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問二	正答	ウ（ Ⅰ　男　Ⅱ　鹿 ）	99	91	71	261	87.0
	誤答	エ（ Ⅰ　男　Ⅱ　人 ）	1	2	8	11	3.7
		オ（ Ⅰ　鹿　Ⅱ　鹿 ）		4	7	11	3.7
		ア（ Ⅰ　鹿　Ⅱ　男 ）		2	6	8	2.7
		イ（ Ⅰ　人　Ⅱ　鹿 ）		1	7	8	2.7
		（ 無　答 ）			1	1	0.3

文脈に即して傍線部が指す語を理解する問題である。正答はウ「Ⅰ　男　Ⅱ　鹿」で，正答率は87.0％，高位の〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

正答率が高かったことから，多くの生徒が動作主体を確認しながら文章を読むことができていると言える。エを選んだ生徒は，「かせぎ」を「人」と見なしているため，リード文や注を見落としていたことが考えられる。ア・オを選んだ生徒は，「我を人助けよ」の「我」と「人」の関係だけに注目し，それを対立的に捉え，「『我＝人以外のもの』を『人』が助けよ」という意味として読み取り，Ⅰを「鹿」だと判断したのかもしれない。ａ・ｂ群に比べて正答率の低かったｃ群の生徒は，部分的な読解をしている可能性があるため，文と文とのつながりにおいて内容を把握する意識をもたせる必要がある。

問三

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問三	正答	オ（ 男がおぼれて死んでしまいそうだから ）	97	91	55	243	81.0
	誤答	エ（ 男が川に流されて死んでしまったから ）	1	2	22	25	8.3
		イ（ 男が鹿に気付かず～求めているから ）	1	5	10	16	5.3
		ア（ 男がまだ自分の死に気付いていないから ）	1	1	8	10	3.0
		ウ（ 男が川に飛び込んで死のうとしたから ）		1	4	5	1.7
		（ 無　答 ）			1	1	0.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はオ「男がおぼれて死んでしまいそうだから」で，正答率は81.0%，群間差の大きい〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

川に流された男が「すでに死なんとす」という状況にあり，「我を人助けよ」と叫んだことが分かれば正答に至る。前後の内容から論理的に動作主体を判断することが重要な点において，本問は問二に通じており，正答率に相関関係が見出せる。エとオの差異は，「死ぬ」という動作が完了したか否かにある。男が死んでしまったと解釈する場合，「我を人助けよ」という言葉が誰のものか分からなくなる上，本文の最後で男が里に帰るという点とも矛盾する。部分的な解釈に誤りがあっても，文章全体の内容を踏まえて考えることができれば，最終的には「我を人助けよ」という言葉が男のものだという判断に至り，オを選ぶはずである。エを選んだ生徒には，文章を読み進める中で誤読の修正を図る力が不足していたと言える。イは内容としては間違っていないが，８行目に「汝が叫ぶ声を悲しみて」とあるため，鹿の「悲しみ」の理由としては不適当である。ａ・ｂ群に比べて正答率の低かったｃ群の生徒には，場面や登場人物を整理しながら文章を読み進める中で，自らの読みを適宜修正する意識をもたせる必要がある。

問四

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問四	正答	ア（ あなたが私に～必要などはありません ）	73	77	59	209	69.7
	誤答	ウ（ あなたが何を～恩返しにはなりません ）	25	21	15	61	20.3
		エ（ あなたはどうしたら～でしょうか ）	1	1	18	20	6.7
		イ（ あなたが私に～とてもできません ）	1	1	5	7	2.3
		オ（ あなたは～恩返しをするのでしょうか ）			2	2	0.6
		（ 無　答 ）			1	1	0.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はア「あなたが私に対して恩返しをする必要などありません」で，正答率は69.7%，〈ｂａ－ｃ型〉を示している。

本問は，傍線部直前の男の疑問に対する「かせぎ」の返答であるため，男の発言にも注目し二つの発言を照らし合わせて理解する必要がある。ａ・ｂ群で誤答を選んだ生徒は，ウ「あなたが何を持ってきたとしても恩返しにはなりません」に集中した。「何事をもちて」の「もちて」を，「以て（～によって）」と解釈できず「持って」と捉えてしまったことによって，誤答を選んでしまったと考えられる。ただａ・ｂ群共に，文脈に即し概略を捉えることができる力は有していると言える。大まかに内容を捉えたあと，叙述に即して細かく解釈していく力を付けていくと良いだろう。一方ａ・ｂ群に比して正答率の低かったｃ群の生徒は，**文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること（Ｃ(1)イ）**が不足していることを念頭に置いて指導する必要がある。話の展開を捉え，登場人物になりきって音読をしたり，演じたりする言語活動を通して，上記のような力を身に付けさせたい。

問五

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問五	正答	人知りなば	71	32	18	121	40.3
	誤答	我が身の色	8	19	11	38	12.7
		この事を恐	11	11	13	35	11.7
		皮を取らん	3	11	5	19	6.3
		「我を人助	1	8	7	16	5.3
		かかる深山	1	8	4	13	4.3
		（その他）	5	11	26	42	14.0
		（無　答）			16	16	5.3

文脈に即し，傍線部の内容を具体的に言い換えた部分を一文で抜き出す問題である。正答は「人知りなば」で，正答率は40.3%，群間差の大きい〈ａ－ｂｃ型〉を示している。

傍線部の発話者は「かせぎ」であり，「身のゆくすゑ」を忘れて助けると「必ず殺されなん」となる。正答に至るには，「ゆくすゑ」という古語の知識とこの後「かせぎ」がどうなるのかということを文章の展開に即して読み取る力が必要である。「ゆくすゑ」は「将来」「行く先」を意味するが，それを誤って「行き着いた先」と解釈した生徒は，「かせぎ」が自身の状況を考えた挙句，「深山に隠れて」いることを指していると考えたのかもしれない。そのように読み取った生徒は，７行目「この事～知られず」に注目したのであろう。また，「『ゆくすゑ』を忘れて」を，「『自身の状況』を忘れて」と解釈した生徒は，６行目「我が身の色五色なり」のことを指していると考えた可能性がある。ａ群の多くの生徒が，文章中の語句を正確に捉え，本文の展開を理解できているのに対し，ｂ・ｃ群の生徒は，語句の知識に加え，文脈に即して登場人物の発言を理解しようとする力が不足している。さらに，「一文」で抜き出せていない生徒は，問題に対して答える際に，ことばの単位にまでは意識が及んでいないと言える。豊かな語彙や文法事項などを身に付け，それらを踏まえた読解を意識させたい。

問六

小問	正誤	解　答　例	a群	b群	c群	合計	%
問六	正答	エ　恩	98	85	59	242	80.7
	誤答	イ　我	1	8	24	33	11.0
		ア　死		4	5	9	3.0
		ウ　命	1		7	8	2.7
		オ　身		2	3	5	1.7
		（無　答）		1	2	3	1.0

本文全体の内容と，問六に示された続きの内容を捉えた上で，空欄を補う語を論理的に導き出す問題である。正答はエ「恩」で，正答率は80.7%，高位の〈ａｂ－ｃ型〉を示している。

大王の発言に適切な語を補充する本問では，男が何を忘れたのか，また人にとって大切なものは何かを，本文の内容を丁寧に読み取った上で，考察する必要がある。「忘れたり」という部分に注目し，補充する語はかつて男が心得ていたものであると気付けば，「恩」という語を導き出すことができる。ａ・ｂ群の多くの生徒が本文をよく理解していたと言える。ｃ群の生徒の中には，本文の内容と結び付けることなく，問六に示された文章のみで，空欄に補充する語を選んだため，「我を忘れる」という慣用表現を導いてしまった生徒もいたようである。特にｃ群の生徒には，本文を根拠とし，必要な情報を集めて全体像を的確に捉える力を養っていくような言語活動が重要であると言える。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点
今回の分析から，古典的文章において，話の展開に即して登場人物の心情を読み取る力はある程度備わっていることが分かった。しかし，全体像を踏まえて叙述を捉えることができていないため，読解が部分的になる傾向が見られた。場面や登場人物の言動を整理しながら，文章を読み進める中で全体像を把握し，自らの読みを適宜修正することができるようになれば，古典的文章により意欲的に取り組めるようになるのではないかと考えた。
指導における改善の具体策
文章を読む前に，その文章のキーワードとなる語だけを抜き出し，それを使って自身であらすじを想像させる。その後文章を読み，読解を踏まえて自身の創作したあらすじを修正させることで，「想像→読解→修正→想像」を繰り返す。このような活動を通して古典的文章に対する興味関心を高め，部分と部分を関連付けて全体像を把握する力を身に付けさせたい。

【指導展開例】※生徒の実態に合わせ，各展開例を組み合わせて行うことが好ましい。

展開①〔ねらい：古典的文章に興味関心をもつ〕

・与えられたキーワードから自身であらすじを創作する【個人の活動】

展開②〔ねらい：文章の大枠を捉える〕

・文章を音読し，自分が作ったあらすじを修正する【個人の活動】

・自分が作ったあらすじと他者のものを比較する【ペア・グループワーク】

・他者のワークシートにアドバイスや意見，疑問点を付箋に書き込み貼り付ける【ペアワーク】

・他者が作った良い点も参考にし，自分が作ったあらすじを再構成する。【個人の活動】

展開③〔ねらい：詳細な読解を踏まえ，自分の読みを修正する〕

・登場人物の言動や心情をまとめる【全体の活動】

・自分のあらすじを再度修正する【個人の活動】

・他者の意見を聞き，自分のものと比較する。

【ワークシート例】「宇治拾遺物語」

ステップ1　物語の展開を想像しよう

(1)空欄に当てはまる語を入れ、話の展開を想像しよう

（　鹿　）が（　男　）に対する　恩　を（　返す　）お話

〈語群〉　鹿　男　返す　忘れる

(2)(1)で想像した展開につながるように、話を組み立てよう

山奥の川で鹿が溺れているところに男が通りかかり、驚かさないように隠れて見ていたが叫ぶこともできない動物を、助けることにした。忘れたころ、鹿が恩を返しにやってきた。男に対して嫌がらせをする大王に怒った鹿が、大王を懲らしめることに成功した話。

〈語群〉鹿　男　大王　恩　川　山奥　隠れる　溺れる　助ける　叫ぶ　怒る　忘れる　返す　悲しむ

ステップ2　話を読み、考えを修正してみよう

山奥に隠れるように住む鹿が、川で溺れていっけ、その叫ぶ声を聞けようと思ったが、男はすぐに死んでしまうくで見ていた人が、い毛の色を見て、仲間を助けようとしてくれようとしたが、時間がれてしまい、大王を怒らせた。人と動物の恩をした話。

男は死んでないと思う

見ていた人？

ステップ3　登場人物の心情を踏まえ言動の理由を考えよう

(1)この男を助けてけり　　心情（　悲しみに堪へずして　）

理由（　男　）が（　死んでしまいそうだった　）から

(2)何事をもちてか恩をば報はん　　誰の発言（　鹿　）

理由　（　五色の鹿のことを言わないだけでいい　）から

(3)身のゆくすゑを忘れて　　身のゆくすゑとは・・・（　人知りなば殺されなん　）

理由（　男　）が（　叫ぶ声に悲しみを覚えた　）から

ステップ4　物語の展開を簡潔に表そう

★空欄に当てはまる語を入れ、話の展開を簡潔に表そう

（　男　）が（　鹿　）に対する　恩　を（　忘れる　）お話

※高等学校学習指導要領（平成30年告示）「言語文化」Ｂ　読むこと⑴ア　に対応。